

外国人児童生徒等に対する 日本語指導

東京学芸大学教授 齋藤 ひろみ



独立行政法人教職員支援機構

講義内容

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題
 - (1) 日本語指導が必要な外国人児童生徒等
 - (2) 外国人児童生徒等教育の課題
2. 「外国人児童生徒に対する日本語指導」の教育課程上の位置
3. 日本語指導を通じて育成する力
4. 日本語指導計画の設計（個別の指導計画）
5. 日本語指導の方法
6. 外国人児童生徒等の教育・支援のためのネットワーク

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題

(1) 日本語指導が必要な外国人児童生徒等

文部科学省調査

「日本語指導が必要な外国人児童生徒等の受け入れに関する調査」 (平成28年)

①外国人児童生徒数・学校数

外国籍	34,335人 (29,198)	7,020校 (6,137)
日本国籍	9,612人 (7,897)	3,611校 (3,022)

日本語指導を受けている割合
約 **75%**

文部科学省「学校基本調査」
(平成28年)

外国籍児童生徒数
80,119人

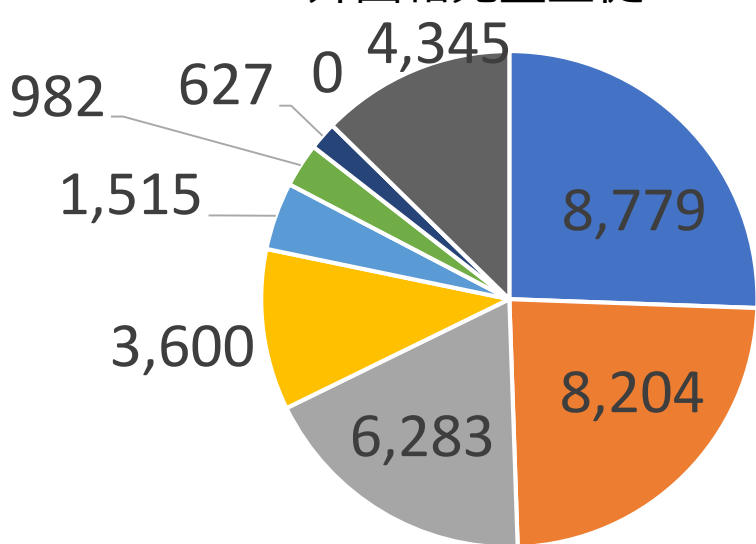
小	外国籍	22,156人	4,384校
	日本国籍	7,250人	2,508校
中	外国籍	8,792人	2,114校
	日本国籍	1,803人	884校
高	外国籍	2,915人	419校
	日本国籍	457人	177校
中等	外国籍	52人	1校
	日本国籍	19人	1校
特別支援	外国籍	261人	91校
	日本国籍	60人	36校

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題

(1) 日本語指導が必要な外国人児童生徒等 文部科学省調査 外国人児童生徒等の数（平成28年）

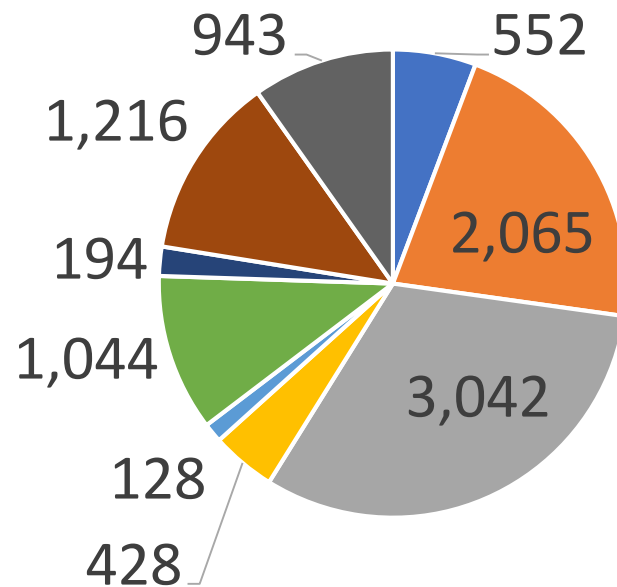
②言語別人数

外国籍児童生徒



- ポルトガル語
- スペイン語
- 韓国・朝鮮語

日本国籍児童生徒

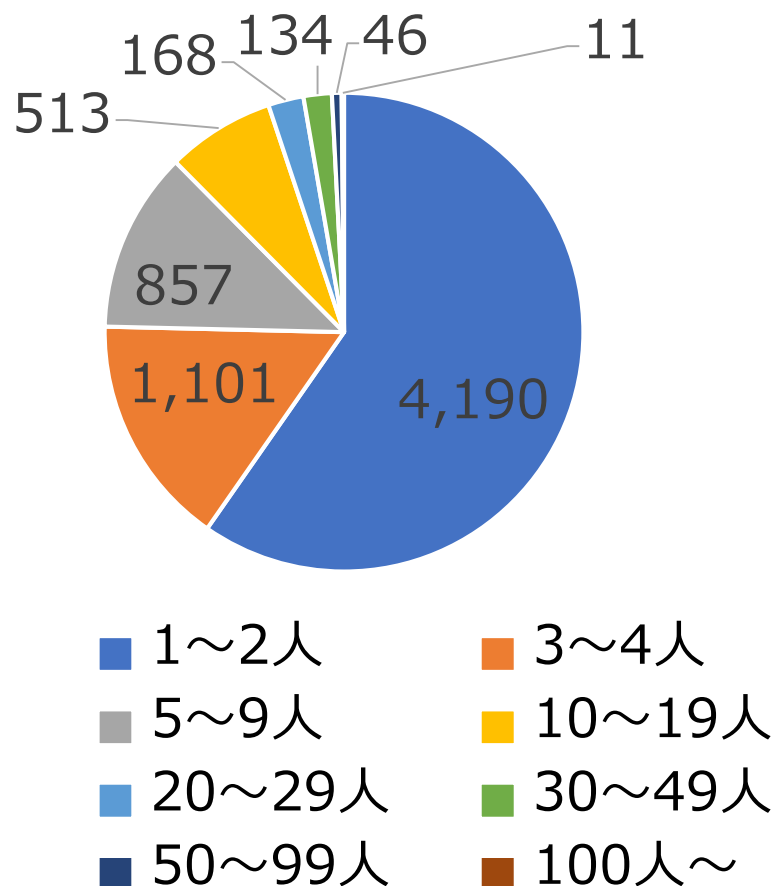


- 中国語
- ベトナム語
- 日本語
- フィリピン語
- 英語
- その他

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題

(1) 日本語指導が必要な外国人児童生徒等

③在籍人数別学校数（外国籍のみ）



都府県名	外国籍 (学校数)	日本籍
愛知県	7, 277人 (795)	1, 998人 (384)
神奈川県	3, 947人 (647)	1, 202人 (377)
東京都	2, 932人 (884)	1, 085人 (464)
静岡県	2, 673人 (357)	337人 (124)
大阪府	2, 275人 (492)	755人 (253)

1. 外国人児童生徒の数とその教育課題

(2) 複雑化・多様化する外国人児童生徒等教育の課題

★子どもたちの多様化

言語・文化 生育環境 滞在期間（世代）

★学校・地域の教育・支援状況の変化

制度 認識

★教育課題の複雑化

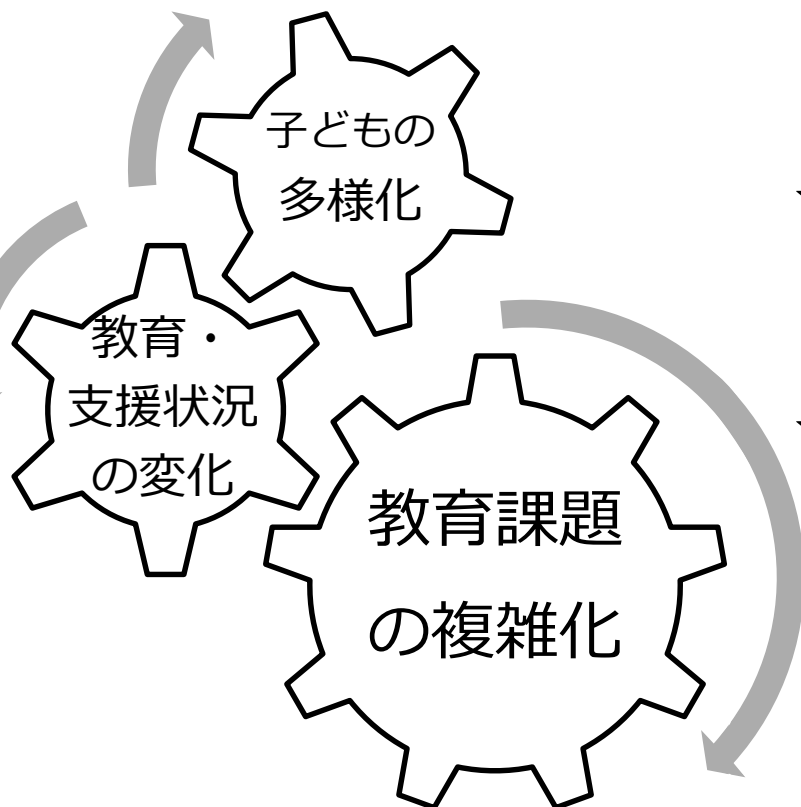
生活適応 日本語の習得

学習言語能力・学力

母語・母文化の保持・伸長

「特別支援」×「日本語習得支援」

進路 自己実現／キャリア形成



2. 「外国人児童生徒に対する日本語指導」の 教育課程上の位置

2. 「外国人児童生徒に対する日本語指導」の 教育課程上の位置

(1) 「特別の教育課程」としての編成・実施 (平成26年)

1 学校教育法施行規則の一部を改正する省令 (平成26年文部科学省令第2号)

(1) 特別の教育課程の編成・実施

小学校, 中学校, 中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において, 日本語に通じない児童又は生徒のうち, 当該児童又は生徒の日本語を理解し, 使用する能力に応じた特別の指導 (以下「日本語の能力に応じた特別の指導」という。) を行う必要があるものを教育する場合には, 文部科学大臣が別に定めるところにより, 特別の教育課程によることができることとすること。

(第56条の2, 第79条, 第108条第1項及び第132条の3関係)

(1) 指導内容 : 日本語を用いて学校生活を営むとともに,
学習に取り組むことができるようにすることを
目的とする

(2) 授業時数 : 年間10単位時間から280単位時間までを標準

2. 「外国人児童生徒に対する日本語指導」の教育課程上の位置

(2) 新学習指導要領総則

第3章 教育課程の編成及び実施

第4節 児童の発達の支援

2 特別な配慮を必要とする児童への指導

(2) 海外から帰国した児童や外国人の児童の指導

- ① 学校生活への適応等 **ア**
- ② 日本語の習得に困難のある児童への通級による指導 **イ**

ア 海外から帰国した児童などについては、**学校生活への適応**を図るとともに、**外国における生活経験を生かす**などの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある児童については、個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、**通級による日本語指導**については、教師間の連携に努め、指導についての**計画を個別に作成**することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

3. 日本語指導を通じて育成する力

3. 日本語指導を通じて育成する力

成長・発達過程にある子どもにとって

ことば（日本語）を獲得すること

= 言語知識や技能の獲得？

= 世界を広げ成長・発達すること

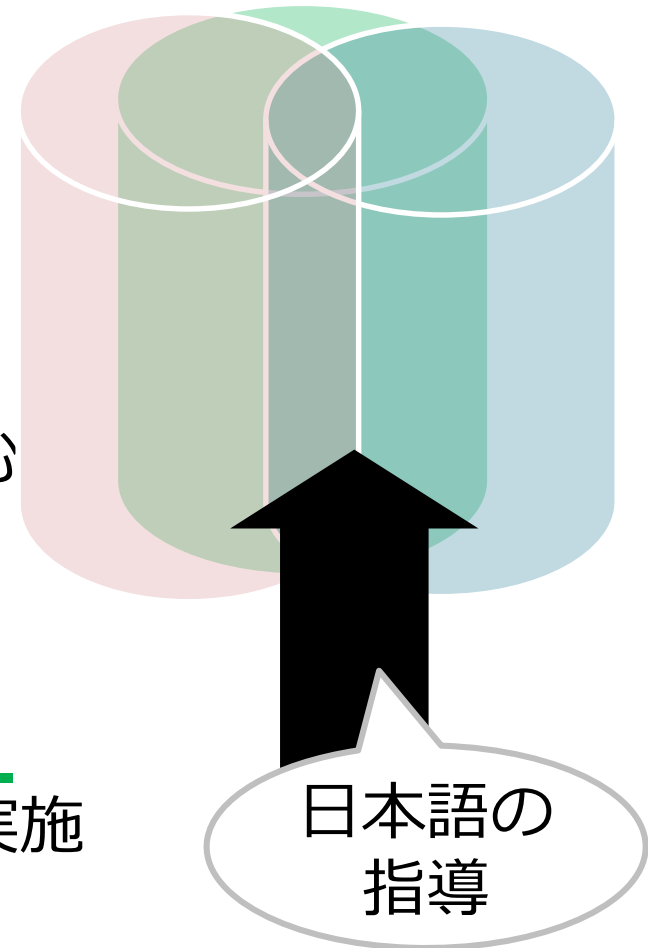
日本語指導を通じて3つの側面の力を育む

A 学校・社会生活

B 学習・認知面の発達

C アイデンティティ形成・自己実現

⇒ **全人的な教育として**日本語指導を実施



3. 日本語指導を通じて育成する力

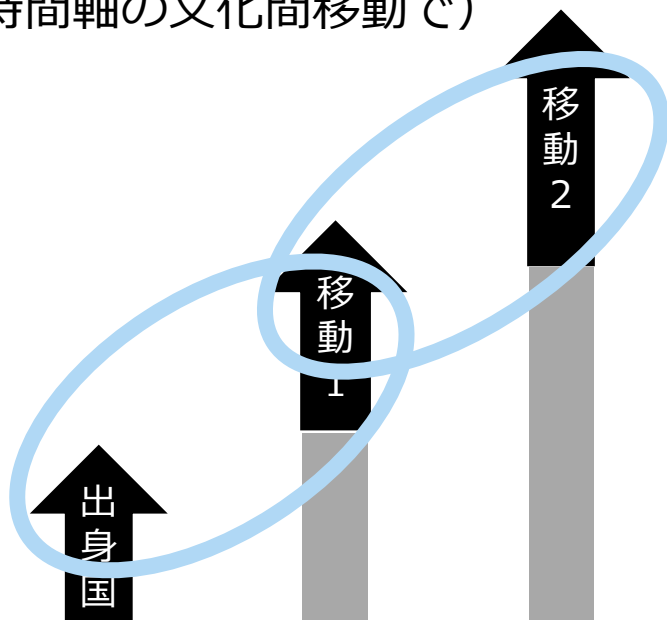
外国人児童生徒等教育の要点

文化間移動により分節化する学び

⇒ 結び合わせて「**学びの連続性**」を保障

学びの連続性 1

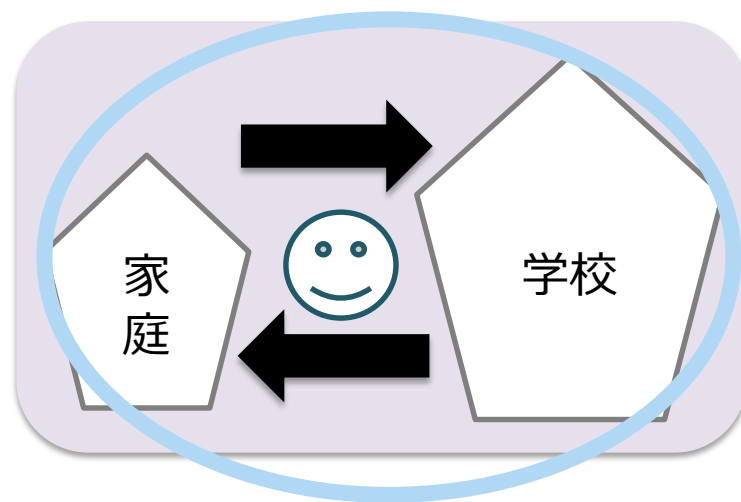
(時間軸の文化間移動で)



個に応じた教育で
ことばと思考を育む

学びの連続性 2

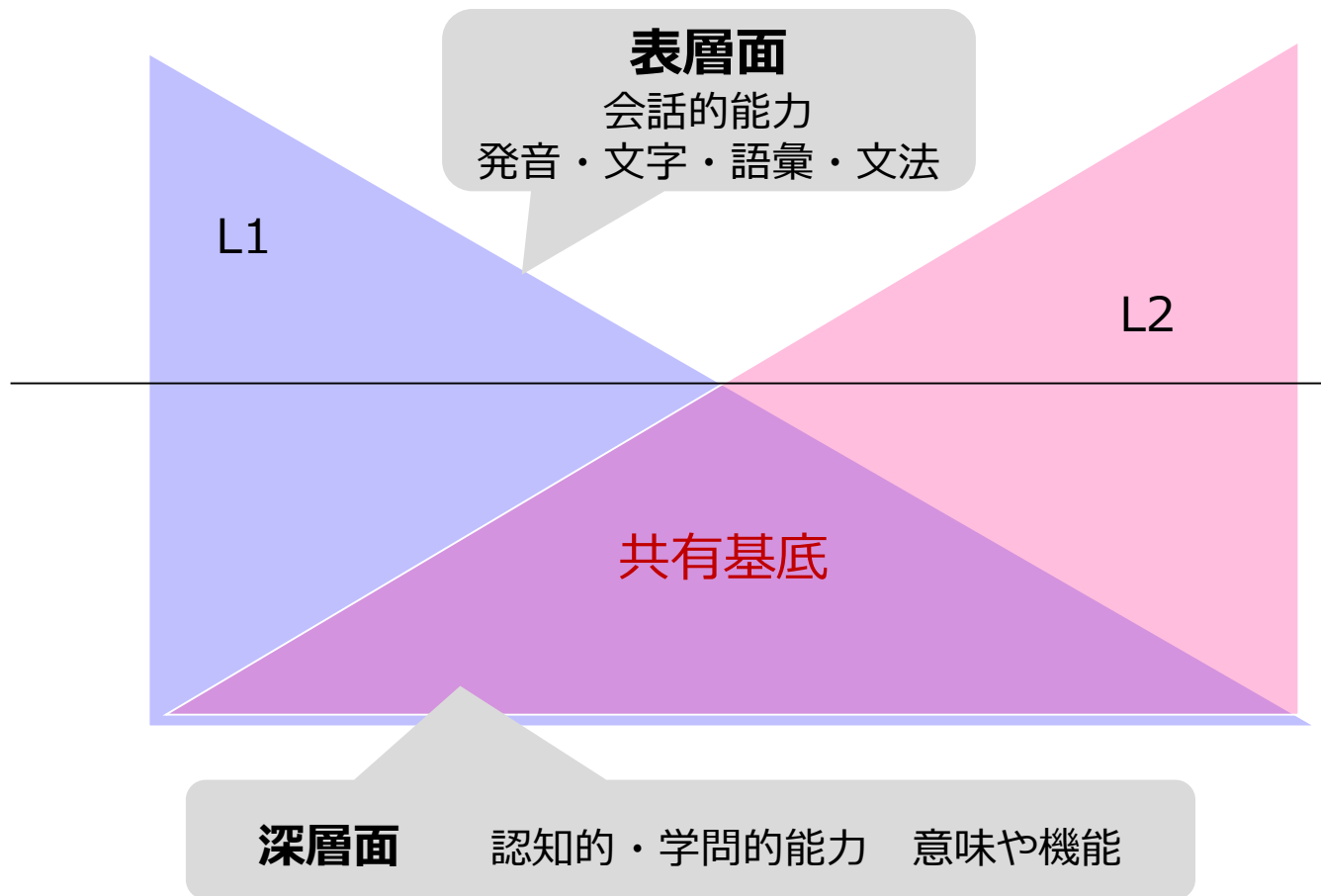
(空間軸の文化間移動で)



家庭と学校での学びを結び
地域・社会に参画する力を育む

3. 日本語指導を通じて育成する力

母語と第二言語（日本語）との関係（カミンズ）



母語の役割：アイデンティティ、自尊感情、認知的発達

3. 日本語指導を通じて育成する力

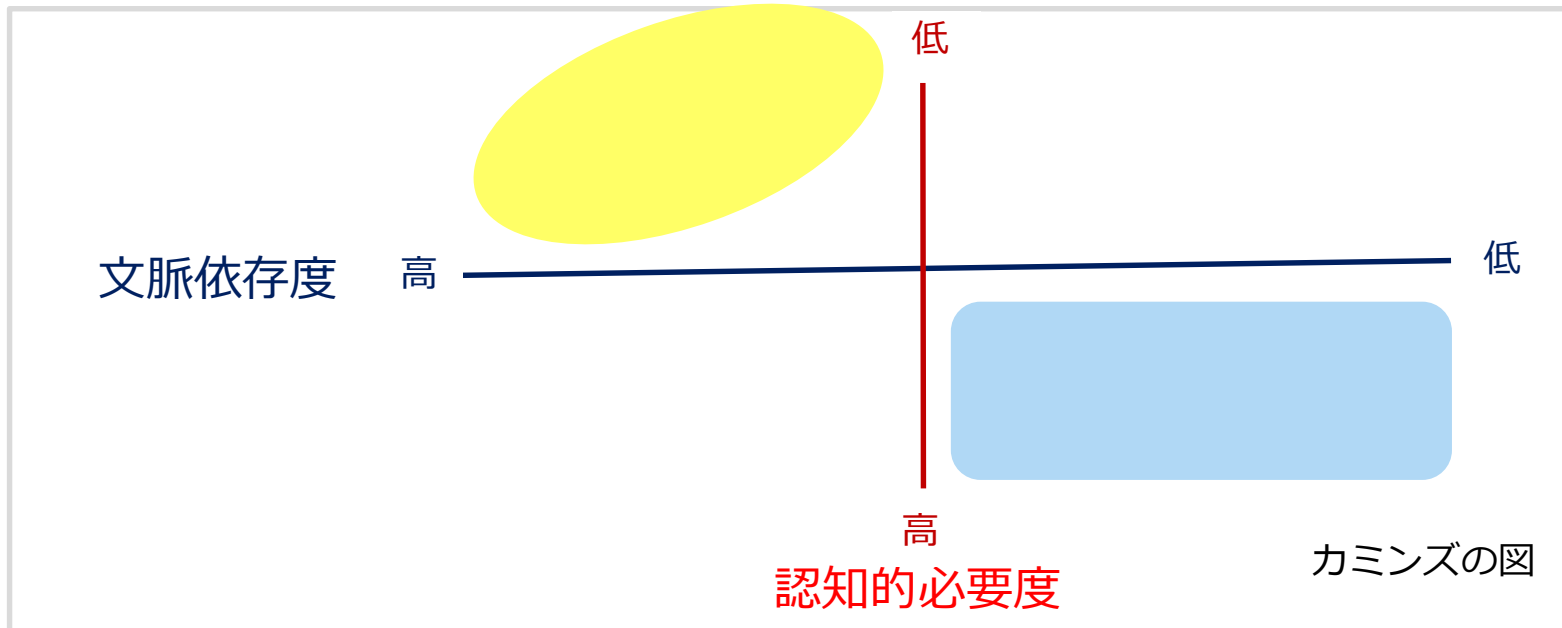
学習言語能力と生活言語能力（カミンズ）

日常生活場面のことばの力

- ・話しことば中心
- ・日々の日本語への接触や友達とのコミュニケーションを通して獲得

学習場面のことばの力

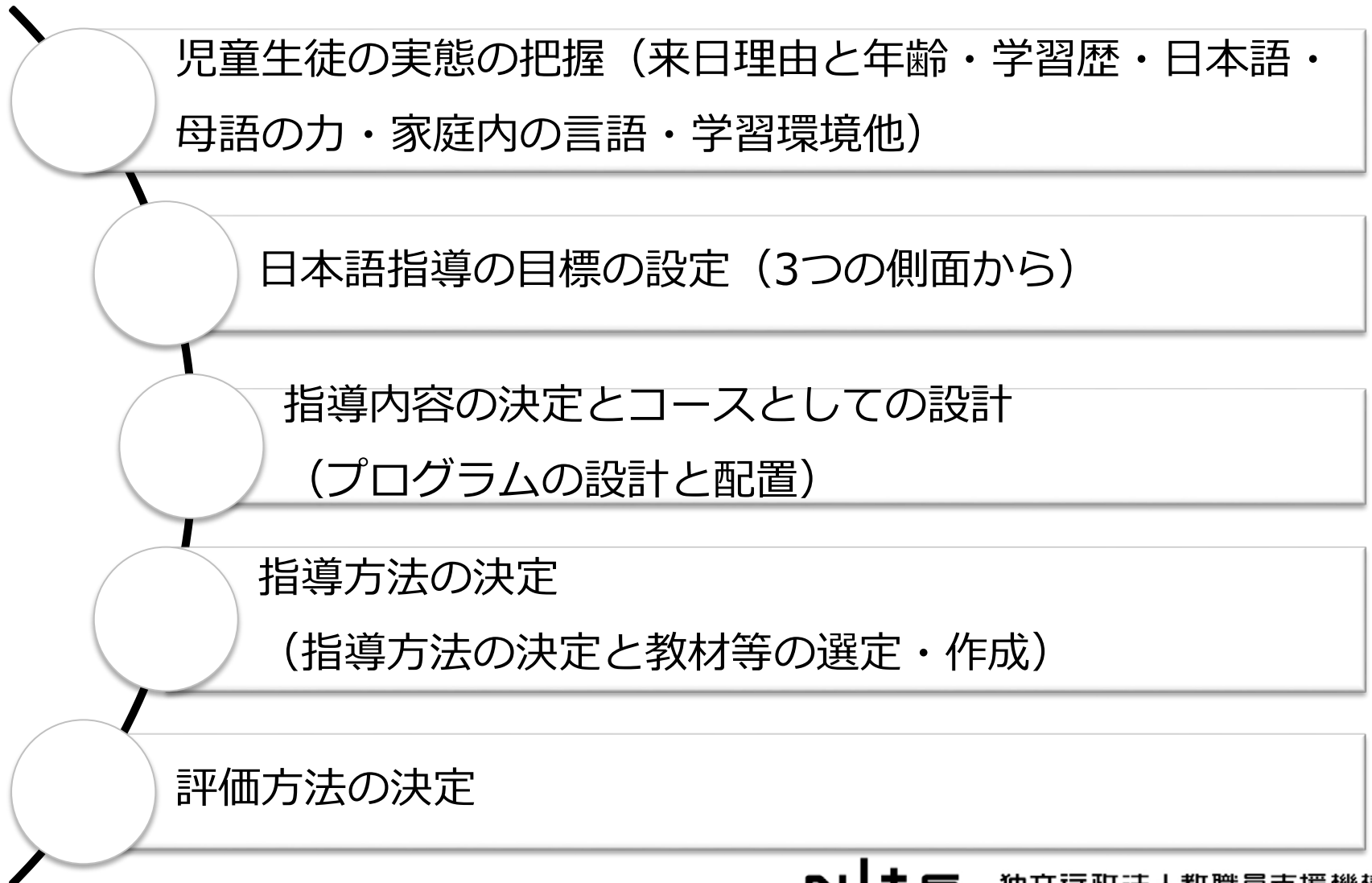
- ・話しことば+書きことば
- ・学習活動への参加と言語を意識した学習を通して習得
(日本語と教科の統合学習)



4 日本語指導計画の設計 (個別の指導計画)

4. 日本語指導計画の設計（個別の指導計画の作成）

（1）設計の手続き



4. 日本語指導計画の設計（個別の指導計画の作成）

①コース目標の設定

指導体制：

どのような児童生徒に 誰が どのぐらいの頻度で いつまで

目標の設定

- 1) 指導期間のゴールとして
(長期目標：1年、2年…)
- 2) 何期かに分け、各期の目標として
(中期目標：各学期、3か月)
- 3) 更に短いスパンで
(小目標：1か月、2週間単位で)

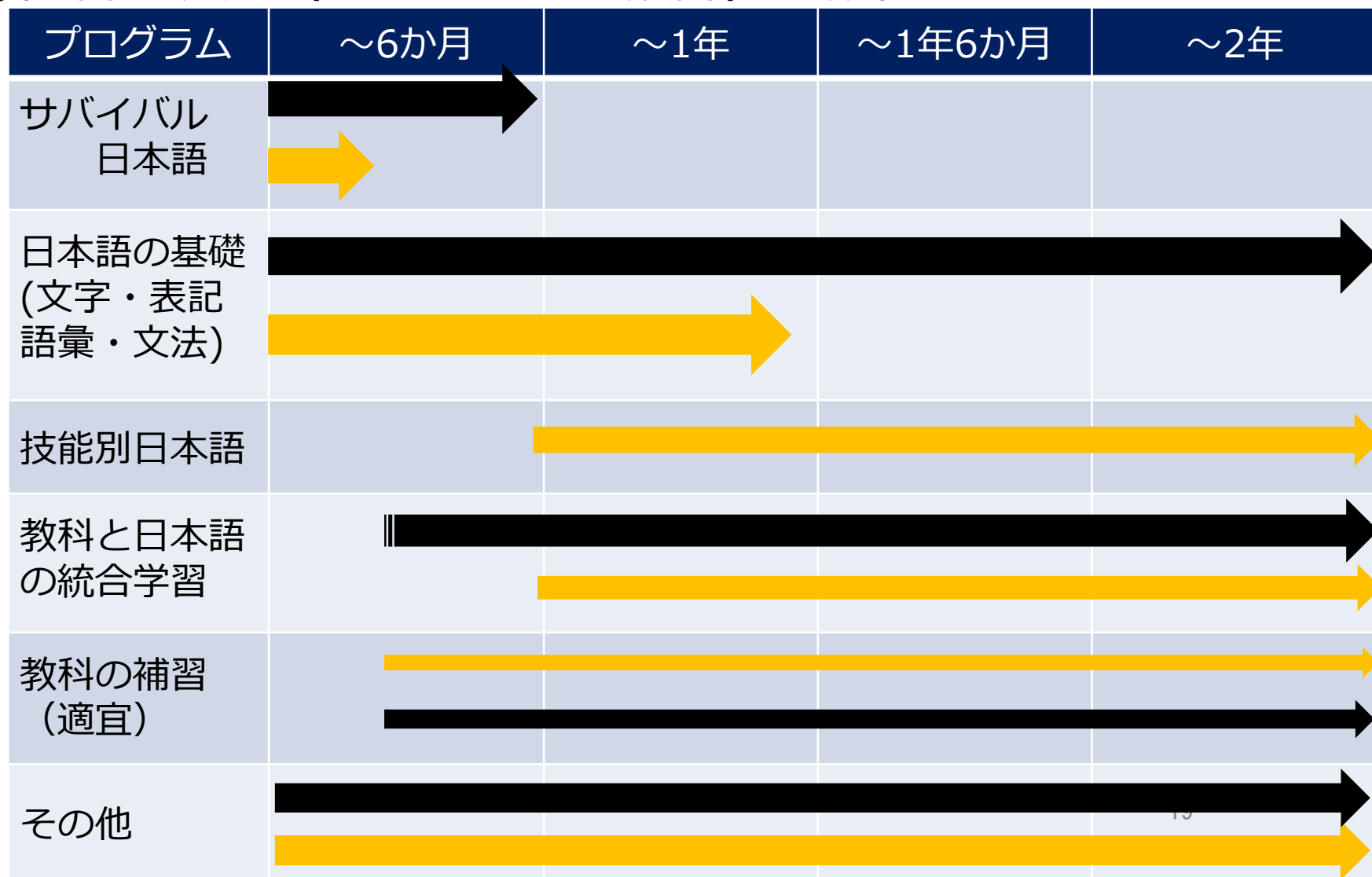
学校生活を営み、学習に取り
組めるようになるまでの指導

3つの教育課題に関連づけて 目標を設定

- 1 学校・社会生活への適応
- 2 学力・認知面の発達
- 3 アイデンティティ・自己実現

4. 日本語指導計画の設計（個別の指導計画の作成）

②内容の決定（プログラムの設計）と配置



黒：小低学年 黄：小高学年以上

(学校設置者に提出する指導計画・報告)

〇〇年度 特別の教育課程編成・実施報告 (参考様式)

学校名 学校長 提出日

指導内容 : ①サバイバル日本語、②日本語基礎、③技能別日本語、
④日本語と教科の統合学習、⑤教科の補習

No.	学年	児童生徒 氏名	指導内容							時間	形態	指導者	
			学習 段階	①	②	③	④	⑤	その他	指導期間			
1													
2													

児童名	()年	作成者		作成/更新日	年 月 日								
日本語の力													
指導目標													
指導計画													
「特別の教育課程」による 日本語指導	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	段階												
	日本語学習内容	学校が保管する指導計画・実施記録様式例											
	指導計画												
指導者													
指導場所									指導時数				
上記以外の指導等													
指導内容及び方法に関する評価 学習状況の評価													

4. 日本語指導計画の設計（個別の指導計画の作成）

③日本語指導計画例（概要）

児童生徒：韓国出身の5年生 Aさん

条件：週2回の取り出し指導 期間：1年間 担当者：日本語指導担当教員

目 標

- 1) 日本の学校・社会について理解し、クラスの友人や周囲の大人と日本語で積極的にコミュニケーションを図り、学校生活を送ることができる。
- 2) 教科等の学習で、支援を受ければ内容のおおよそを理解し、想像したり考えたりしたことを日本語で伝え合うことができ、課題の解決に主体的に取り組むことができる。
- 3) 日本語を学ぶことや母国や母語について、自分の将来に関連付けながら考えることができる。

Aさんの指導計画（日本語プログラムとその配置）

	3か月	6か月	9か月	12か月
サバイバル	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 係り 健康診断 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事・祭事 地域の活動 	—	—
文字	<ul style="list-style-type: none"> 仮名 漢字1年 	<ul style="list-style-type: none"> 仮名復習 漢字2年 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字2年 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字2+3年
基本文型	<ul style="list-style-type: none"> 初級文型 	<ul style="list-style-type: none"> 初級文型 	<ul style="list-style-type: none"> 中級文型 	<ul style="list-style-type: none"> 中級文型
技能別日本語	—	—	出来事作文	説明文作文
教科 (既習) (新規)	<既習> 算：四則演算 理：観察 社：地図	<既習> 算数：分数 理科：磁石、電池 社会：町探検	<新規> 算：面積、概数 社：水道 理：へちま	<新規> 算：表とグラフ 社：昔のもの 理：電池
その他 母文化	在籍学級で交流、 紙芝居	在籍学級で交流 読み聞かせ	「10年後の私 へ」読み聞かせ	読み聞かせ
母語・母文化の学習				

5. 日本語指導の方法

5. 日本語指導の方法（事例の紹介）

(1) 「サバイバル日本語」の指導

➡ 日常のコミュニケーションの力（生活言語能力）を育む

生活上の必要性・緊急性から必要な表現を選定してプログラム化
健康・衛生／安全／関係づくり／学校生活

場面を示して、表現を聞いたり話したりする練習をし、行動のためにことばを使えるようにする。

例：給食の場面（来日直後）

A：これ、なに？

B：たまごスープ。

A：ぼく、いらない。

たまごアレルギー。

B：うん、わかった。



5. 日本語指導の方法（事例の紹介）

（2）「日本語基礎」の文型の指導 → 日本語の知識・技能を育む

日本語の文型（構造）の体系・難易度
児童生徒の生活・学習上の必要性
活動の組み立て

語彙・文型を選択し、
配列してプログラム化

- 1) 新しい文型を導入（意味と形式の理解）
- 2) リピート、一部の入れ替え等の練習をする。
- 3) 様々な場面・状況で使うを練習する。

例) 比較の文型「～が～より～です」

（滞日3か月 4年生）

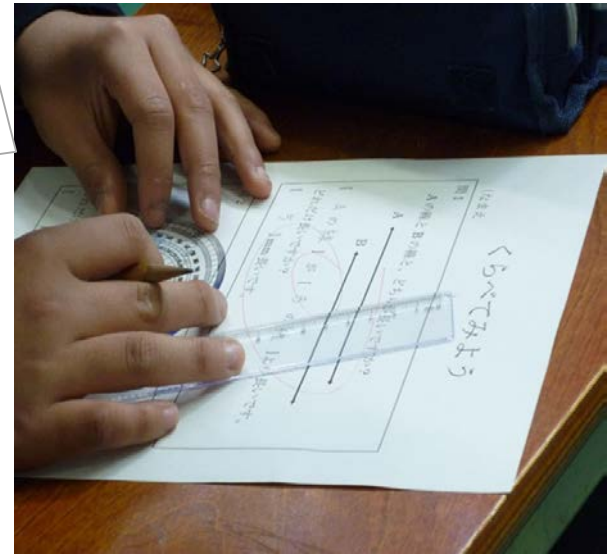
線の長さ、角の角度を測り、比較して表現する。

Aの線がBの線より長いです。

3ミリメートル長いです。

※生活経験、教科の知識・スキル、
母語を活性化し、活用して学べるように

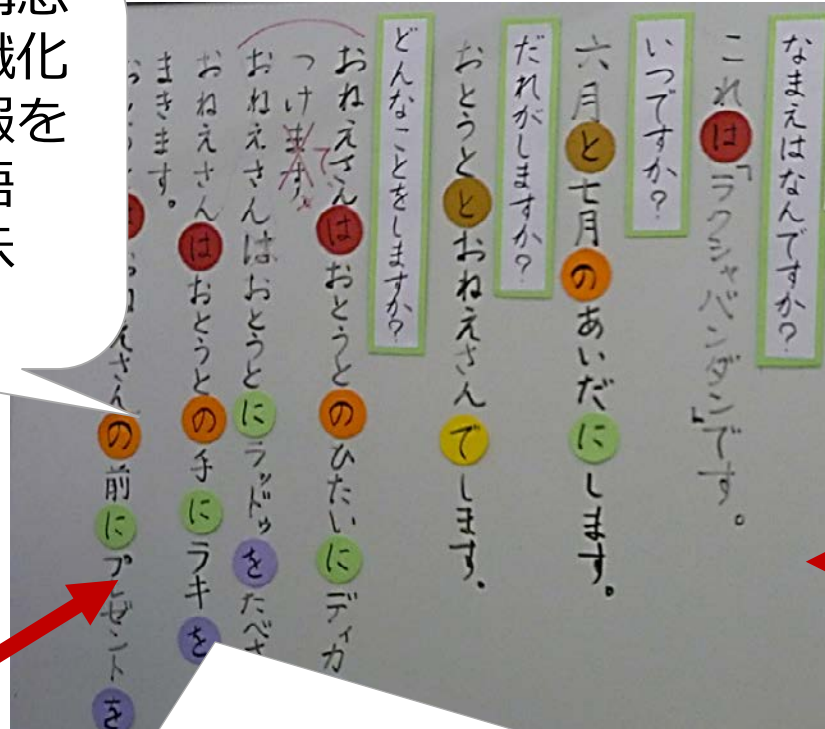
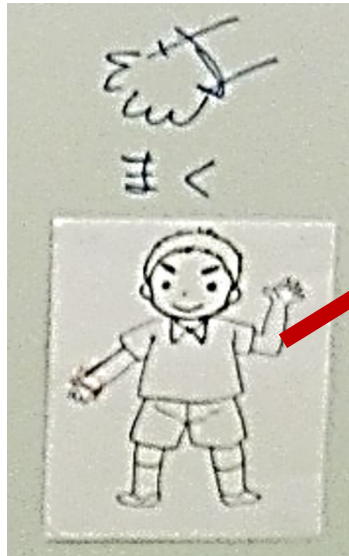
…学習の連続性の保障



5. 日本語指導の方法（事例の紹介）

(3) 「技能別日本語」の指導 → 読み書きの力 (≡学習言語能力) を育む

やりとりで内容を構想し、文章構成を意識化させる。視覚的情報を利用して、適切な語彙・表現、文型を示し、利用を促す。



児童：6年生
ネパール出身
滞日8か月



先生が「なぜ〇〇さんが△さん（弟）に食べさせるの」と尋ねると英語で「Power」と「Relationship」と応える。
…児童の認知的な力や思想性が発揮

5. 日本語指導の方法（事例の紹介）

(4) 日本語と教科の統合学習 → 学習言語能力と教科の知識の獲得

児童：5年生（中国出身・滞日7か月）

単元：社会科「気候」

（日本語×社会科×算数）

日本語の目標：気候に関わる写真・グラフを見て、考えたことを日本語で表現できる。

3時間目：中国の出身地と東京の気候（気温・降水量）の比較



<4時間目のまとめ>
那覇は夏に降水量が多いが、上越は冬に多い。
...

ぼくは、沖縄にすみたいです。…でも、沖縄が大きいな台風がおそわれることも多いです。だから、ぼくは心配です。ぼくは、上越にあまりすみたくないです。
...

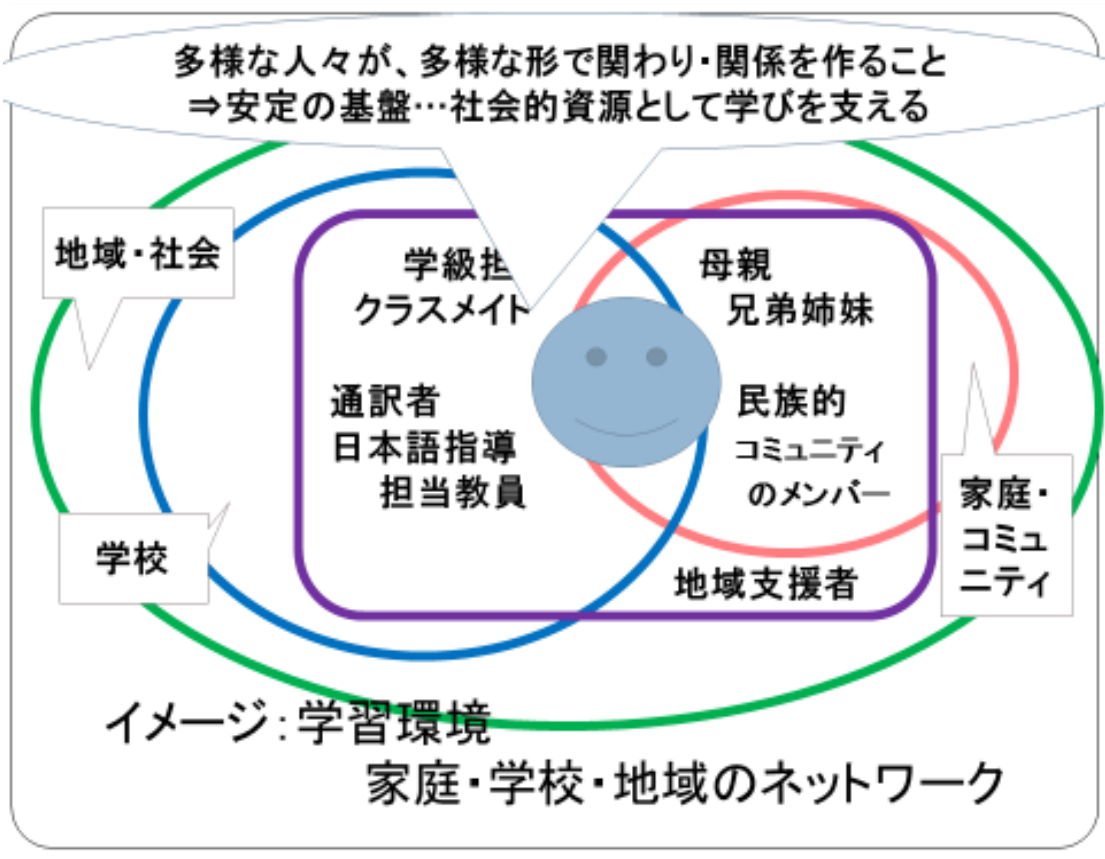
気候がたがいに、友達もいろいろだからです。

4時間目：日本各地の気候の特徴

6. 外国人児童生徒等の教育・支援のための ネットワーク

6. 外国人児童生徒等の教育・支援のためのネットワーク

多様な人々が、多様な形で関わり・関係を作ること
⇒ 安定の基盤… 社会的資源として学びを支える



外国人児童生徒等教育 (日本語指導) の 使命・役割

文化間移動後に、その社会（学校を含む）と関係を**つくり**自分の**社会的役割**を確認し**探究**する過程の伴走。ことばは相互作用の道具。

学習環境となる教育・支援の**ネットワーク構築**が**重要**

外国人児童生徒等に対する 日本語指導

東京学芸大学教授 齋藤 ひろみ



独立行政法人教職員支援機構